

《大腿骨近位部骨折評価表》

□初期 □定期 □最終

氏名: _____ 年 月 日 担当:

年齢: _____ 歳 身長: _____ cm 体重: _____ Kg

1. 必須項目

文献・推論番号	項目	評価結果	memo
①	画像所見	□確認(骨折レベル、転移、大腿骨頭部の短縮・骨頭変位等)	
②	手術法	□HHA(BHA等) □THA □CHS □γネイル □PHN □エンダー釘	
	侵入法:切離	□後方:梨状筋腱部・大転子 □後側方:中小殿筋後方・大転子 □側方:大転子 □前側方:中小殿筋腱部前方・大転子 □前側方(最小侵襲術):なし □前方:筋膜張筋起始部 □前方(最小侵襲術):なし	
③	脱臼リスク	□前方・前外方アプローチ:伸展・内転・外旋 □後方・後側方アプローチ:屈曲・内転・内旋 ※前方アプローチは前方、後方アプローチは後方脱臼リスクが高い	
④	認知機能検査 (MMSE or HDS-R)	□MMSE(/30) □HDS-R(/30) ※カットオフ値:MMSE23点・HDS-R20点以下	
⑤	視診・触診	視診・触診() □腫脹 □熱感 □発赤()	
⑥	疼痛(NRS)安静時/動作時	NRS:安静時() 動作時() 荷重時()	
⑦	下肢長測定(SMD・TMD) (R/L)	SMD(/) TMD(/)	
⑧	下肢周径(大腿)(R/L)	膝蓋骨上縁より15cm上(/)	
⑨	関節可動域:股関節(R/L)	屈曲 active(/)passive(/)	
		伸展 active(/)passive(/)	
		外転 active(/)passive(/)	
		内転 active(/)passive(/)	
⑩	筋力(MMT):股関節(R/L)	屈曲(/)伸展(/) 外転(/)内転(/)	
	筋力(MMT):膝関節(R/L)	伸展(/)	
⑪	バランス (TUG、BBS)	TUG:右回り() 左回り()	
		BBS(/56) (評価用紙有)	
		※カットオフ値:TUG > 13.5秒 BBS 病棟自立レベル ≥ 46点以上、病棟内見守りレベル ≥ 36点以上	
⑫	歩行速度(10m歩行)	通常速度(秒) 最速速度(秒)	
		※カットオフ値:自立度判定の指標は屋内歩行24.6秒、屋外歩行11.6秒 サルコペニア基準値<1.0m/秒	
⑬	サルコペニア	握力(/)	
		※カットオフ値:男性<28kg 女性<18kg	
		In Body:SMI(kg/m ²) ※カットオフ値:SMI 男性<7.0kg/m ² 女性<5.4kg/m ²	
⑭	離床時間	□離床時間()(評価用紙有)	
⑮	排泄	□排泄チェックシート(評価用紙有)	
⑯	ADL(FIM)	□FIM:運動項目(/91) 認知項目(/35) 合計(/126)	

【考察】

Berg Balance Scale (BBS)

評価日:

評価者:

1 立ち上がり(椅子坐位からの立ち上がり)

◇指示:「手を用いずに立って下さい」

- 4: 立ち上がり可能
- 3: 手を用いれば一人で立ち上がり可能
- 2: 数回試した後、手を用いて立ち上がり可能でない
- 1: 立ったり、平衡をとるために最小限の介助が必要
- 0: 立ち上がりに中等度ないし高度な介助が必要

2 立位保持

◇指示:「つかまらずに2分間立ったままでいて下さい」

- 4: 安全に2分間立位保持可能
- 3: 監視下で2分間立位保持可能
- 2: 30秒間立位保持可能
- 1: 30秒間立位保持に数回の試行が必要
- 0: 介助なしには30秒間立位保持できない

※ 2分間安全に立位保持できれば、立位保持の項目は満点とし、4 坐り(立位から坐位へ)の項目にすむ

3 坐位保持(両足を床につけ、もたれずに坐る)

◇指示:「腕を組んで2分間坐って下さい」

- 4: 安全確実に2分間坐位をとることが可能
- 3: 監視下で2分間坐位をとることが可能
- 2: 30秒間坐位をとることが可能
- 1: 10秒間坐位をとることが可能
- 0: 介助なしでは10秒間坐位をとることが不可能

4 坐り(立位から坐位へ)

◇指示:「どうぞお坐り下さい」

- 4: ほとんど手を使用せずに安全に坐ることが可能
- 3: 両手でしゃがみ動作を制御する
- 2: 両下腿背側を椅子に押しつけてしゃがみ動作を制御する
- 1: 坐れるがしゃがみ動作の制御ができない
- 0: 介助しないとしゃがみ動作ができない

5 トランスファー

◇指示:「車椅子からベッドに移り、また車椅子へ戻って下さい」

◇指示:「まず肘掛を使用して移って下さい。次に肘掛を使用しないで移って下さい」

- 4: ほとんど手を使用せずに安全にトランスファーが可能
- 3: 手を十分に用いれば安全にトランスファーが可能
- 2: 言葉での誘導もしくは監視があればトランスファーが可能
- 1: トランスファーに介助者1名が必要
- 0: 2名の介助者もしくは安全面での監視が必要

6 立位保持(閉眼での立位保持)

◇指示:「目を閉じて10秒間立っていて下さい」

- 4: 安全に10秒間閉眼立位可能
- 3: 監視のもとで10秒間閉眼立位可能
- 2: 3秒間は立位保持可能
- 1: 閉眼で3秒間立位保持できないが、ぐらつかないで立っている
- 0: 転倒しないよう介助が必要

7 立位保持(両足を一緒に揃えた立位保持)

◇指示:「足を揃えて、何もつかまらずに立っていて下さい」

- 4: 一人で足を揃えることができ、1分間安全に立位可能
 - 3: 一人で足を揃えることができ、1分間監視
 - 2: 一人で足を揃えることはできるが、30秒立位は不可能
 - 1: 開脚立位をとるために介助が必要であるが、足を揃えて15秒立位可能
 - 0: 開脚立位をとるために介助が必要で、15秒立位保持不可
- ※ 以下の項目は、立位保持中に実施する

8 両手前方(上肢を前方へ伸ばす範囲)

◇指示:「両手を90°上げて下さい。指を伸ばした状態でできるだけ前方に手を伸ばして下さい」

→測定者は、被験者が90°に上肢を上げたときに指先の先端に定規を当てる。前方に伸ばしている間、定規に指先が触れないようにする。最も前方に傾いた位置で指先が届いた距離を記録する。

- 4: 確実に25cm以上前方へリーチ可能
- 3: 12.5cm以上安全に前方へリーチ可能
- 2: 5cm以上安全に前方へリーチ可能
- 1: 監視があれば前方へリーチ可能
- 0: 転倒しないよう介助が必要

9 拾い上げ(床から物を拾う)

◇指示:「足の前にある靴(あるいはスリッパ)を拾い上げて下さい」

- 4: 安全かつ簡単に靴(あるいはスリッパ)を拾い上げることが可能
- 3: 監視があれば靴(あるいはスリッパ)を拾い上げることが可能
- 2: 独力で平衡を保ったまま2.5~5cmのところに置いたスリッパまでリーチできるが、拾い上げることはできない
- 1: 検査中監視が必要であり、拾い上げることもできない
- 0: 転倒しないよう介助が必要で、検査ができない

10 振り返り(左右の肩越しに後ろを振り返る)

◇指示:「左肩越しに後ろを振り返りて下さい。それができたら今度は右肩越しに後ろを振り返りて下さい」

- 4: 上手に体重移動しながら、両方向から振り返る
- 3: 一方からのみ振り返りができる。もう一方では体重移動が少ない
- 2: 横を向けるだけだが、バランスは保てる
- 1: 振り返り動作中に監視が必要
- 0: 転倒しないよう介助が必要

11 360°方向転換(1回転)

◇指示:「円周上を完全に1周回って下さい。いったん止まり、その後反対方向に1周回って下さい」

- 4: 4秒以内に両方向安全に1周回ることが可能
- 3: 4秒以内に一方のみ安全に1周回ることが可能
- 2: ゆっくりなら1周回ることが可能
- 1: 間近での監視が必要か、言葉での手がかりが必要
- 0: 1周するのに介助が必要

12 踏み台昇降

◇指示:「足台の上に交互に足をのせて下さい。各足が4回ずつ足台にのるまで続けて下さい」

- 4: 支持なしで安全にかつ20秒以内に8回足のせが可能
- 3: 支持なしで20秒以上必要であるが、完全に8回足のせが可能
- 2: 監視下であるが、介助不要で、完全に4回足のせが可能
- 1: 最小限の介助で、完全に2回以上の足のせが可能
- 0: 転倒しないよう介助が必要。または試行不可能

13 タンデム立位(片足を前に出した立位保持)

◇指示:「課題を実地で説明」一方の足をもう一方の足のすぐ前にまっすぐ置いて下さい。もしできないと感じたならば、前になっている足の踵を、後ろになっている足のつま先から十分に離れたところに置いてみて下さい」

- 4: 単独で継ぎ足を取ることができ、30秒保持可能
- 3: 単独で足を別の足の前に置くことができ、30秒保持可能
- 2: 単独で足をわずかにずらし、30秒保持可能
- 1: 検査姿勢をとるために介助を要するが、15秒保持可能
- 0: 足を出すとき、または立っているときにバランスを崩してしまう

14 片足立位

◇指示:「どこにもつかまらず、できるだけ長く片足で立っていて下さい」

- 4: 単独で片足を上げ、10秒以上保持可能
- 3: 単独で片足を上げ、5~10秒保持可能
- 2: 単独で片足を上げ、3秒もしくはそれ以上保持可能
- 1: 片足を上げることはできるが、片足立ちを3秒保持することができない
- 0: 試行不可能、もしくは転倒予防に介助が必要

総合得点: /56点

排泄チェック表

排泄ケアマニュアル（名古屋大学）一部改定

日付： _____ 年齢： _____ 性別： _____ 病棟： _____
 名前： _____
 疾患： _____

No	項目	○/×	尿失禁のタイプ				尿排出障害	排便障害 (○/×)
			腹圧性	切迫性	溢流性	機能性		
1	尿意を訴えない（尿意がわからない）			-1.3	0.8			
2	咳・くしゃみ・笑うなど腹圧時に尿がもれる		2.2					
3	尿がだらだらと常にもれている				4	2.8		
4	パンツをおろす、あるいはトイレに行くまでに我慢できずに尿がもれる			2.8				
5	排尿の回数が多い（起床から就寝まで：8回）以上または夜間：3回以上）			1.0				
6	いつもおなかに力をいれて排尿している				1.2			
7	排尿途中で尿線がとぎれる					1.8		
8	トイレ以外の場所で排尿をする					1.1		
9	排泄用具またはトイレの使い方がわからない				2.7			
10	トイレまで歩くことができない				1.0	1.2	0.9	
11	準備に時間がかかったり、排泄器具をうまく使えない					2.2		
12	尿失禁に関心が無い、あるいは気づいていない					1.9		
13	経期的分娩の既往がある		1.3					
14	3日以上排便が認められない							
15	座薬・下剤を使用している							

1～13の合計点							
引き算分			-1.8	-2.1	-3.3	-1.6	-1.4
最終点							
チェック結果			診断あり	診断あり	診断あり	診断あり	診断あり

No14, 15で1つでも○がついた場合は診断あり

リハビリ内容	<ul style="list-style-type: none"> 骨盤底筋訓練 膀胱訓練 生活指導 排尿指導 	<ul style="list-style-type: none"> 骨盤底筋訓練 膀胱訓練 時間排尿誘導 トイレ環境の整備 着衣の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 用手排尿法 トリガー刺激法 残尿測定 排尿姿勢の指導 清潔間欠導尿の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 移動、移動訓練 トイレ動作訓練 環境整備 機能訓練 	<ul style="list-style-type: none"> クランプによる膀胱訓練 残尿測定 排尿姿勢の指導 トリガー刺激法 用手排尿法 残尿測定 清潔間欠導尿の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 排便時間の検討 排便しやすい体勢 腹部マッサージ 骨盤底筋群の収縮 蠕動運動の促進
--------	--	---	--	--	---	---

訓練プログラム (詳細についてはスライド参照)	臥位 (座位困難)	訓練 ①②⑧⑩	訓練 ①②⑧⑩	訓練 ⑤⑧	訓練 ⑧⑩⑪	訓練 ⑤⑧	訓練 ②⑨⑩ ⑬⑭⑰
	座位 (立位困難)	訓練 ①③⑧⑩	訓練 ①③⑧⑩	訓練 ⑥⑧	訓練 ⑧⑩⑪	訓練 ⑥⑧	訓練 ③⑨⑩ ⑬⑭⑰
	立位 (立位可能)	訓練 ①④⑧⑩	訓練 ①④⑧⑩	訓練 ⑦⑧	訓練 ⑧⑩⑪	訓練 ⑦⑧	訓練 ④⑨⑩ ⑬⑭⑰
	カテーテル 留置時					訓練 ⑫	

Cumulated Ambulation Score (CAS, 0-6点)			
	安全にできる	介助または口頭指示があればできる	介助や口頭指示があってもできない
ベッドへの/ベッドからの移乗動作	2	1	0
肘掛け付き椅子/車椅子からの立ち座り	2	1	0
屋内歩行(歩行補助具利用可)	2	1	0
小計			
		合計	

The New Mobility Score (NMS, 0-9点)				
	できる	歩行補助具があればできる	他人の助けを借りてできる	できない
屋内歩行	3	2	1	0
屋外歩行	3	2	1	0
買い物中の歩行	3	2	1	0
小計				
			合計	

Falls Efficacy Scale-International (FES-I, 16-64点)				
	転倒にまったく気を遣わない	転倒にどちらかという気を遣う	転倒にかなり気を遣う	転倒にとても気を遣う
家の掃除	1	2	3	4
着替え	1	2	3	4
簡単な食事の準備	1	2	3	4
自宅の浴槽への出入り	1	2	3	4
日用の食料品の買い物	1	2	3	4
椅子からの立ち座り	1	2	3	4
階段昇降	1	2	3	4
近所の散歩	1	2	3	4
床の物、または頭上の物を取る	1	2	3	4
電話の呼び出し音が鳴り止む前に受話器を取る	1	2	3	4
滑りやすい路面を歩く	1	2	3	4
親しい友人や親戚を訪ねる	1	2	3	4
人混みの中を歩く	1	2	3	4
凸凹の路面を歩く	1	2	3	4
坂道を登るまたは下りる	1	2	3	4
家族以外との活動や会合への参加	1	2	3	4
小計				
			合計	

Short Physical Performance Battery (SPPB)

評価日:

評価者:

1. バランステスト

POINT

- 歩行補助具（杖や歩行器など）は使用しない
- 手でバランスをとったり膝を曲げてよい



閉脚立位



セミタンデム立位

※ 片足の踵ともう片方の親指を付けた状態



タンデム立位

結果: _____ 秒

10秒可能	1点
10秒未満	0点
実施困難	0点

結果: _____ 秒

10秒可能	1点
10秒未満	0点
実施困難	0点

結果: _____ 秒

10秒可能	2点
3 - 9.99秒	1点
3秒未満	0点
実施困難	0点

2. 歩行テストへ

2. 歩行テスト: 普通のスピードで4m歩行し、その時間を2回測定

方法

- 被験者はスタートラインに足をそろえる
- 合図とともに被験者が歩き始めたら時間を測定
- 片方の足がゴールを超えたら測定ストップ
- ゴールでは止まらずにラインを超えてもらう

POINT

- 歩行補助具（杖や歩行器など）は使用可能

1回目 結果: _____ 秒

2回目 結果: _____ 秒 歩行補助具の使用: なし あり (_____)

4.82秒未満	4点
4.82 - 6.2秒	3点
6.21 - 8.7秒	2点
8.7秒以上	1点
実施困難	0点

3. 椅子立ち上がりテスト

方法

- 胸の前で腕を組む
- 素早く立ち上がる・座るを5回繰り返した時間を測定



結果: _____ 秒

11.19秒未満	4点
11.2 - 13.69秒	3点
13.7 - 16.69秒	2点
16.7秒以上	1点
60秒以上、実施困難	0点

合計点数: _____ 点